

令和6年10月21日

四国地域の経済動向（概要）
（令和6年8月分）

～四国地域の経済は、持ち直しの動きがみられる～（↗）
（一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きが続いている）

生産（→）	鉱工業生産は、一進一退で推移している。《一進一退で推移》 鉱工業生産指数は、前月比が2カ月ぶりに低下した。
個人消費（↗）	個人消費は、持ち直している。《持ち直しているものの、足踏みがみられる》 百貨店・スーパー販売額（全店）は、2カ月ぶりに前年を上回った。 コンビニエンスストア（全店）の販売額は、3カ月連続で前年を上回った。 家電大型専門店販売額は、3カ月連続で前年を上回った。 ドラッグストア販売額は、38カ月連続で前年を上回った。 ホームセンター販売額は、3カ月連続で前年を上回った。 乗用車新車新規登録・届出台数は、2カ月連続で前年を上回った。
住宅着工	新設住宅着工戸数は、2カ月ぶりに前年を下回った。
公共工事	公共工事は、請負金額が4カ月連続で前年を上回り、年度累計は4カ月連続で前年度を上回った。
設備投資	令和6年度の設備投資計画額は、3年ぶりに前年度を上回る見込み。
雇用	雇用は、有効求人倍率が5カ月ぶりに前月を上回り、一般新規求人数は2カ月ぶりに前年を下回った。
倒産	倒産件数、負債総額ともに2カ月連続で前年を上回った。

注意：（ ）内は基調判断の動き。→は据え置き、↗は上方修正、↘は下方修正を示す。《 》内は前月の基調判断を記載している。

【四 国 の 経 済 指 標】

令和6年8月

	四 国			全 国		
	前月比(%)	前年同月比(%)		前月比(%)	前年同月比(%)	
鉱工業生産指数 （平成27年=100、全国は令和2年=100 季節調整済 前年同月比は原指数）	85.7	▲ 3.9	▲ 8.9	99.7	▲ 3.3	▲ 4.9
鉱工業出荷指数（〃）	83.6	▲ 0.6	▲ 6.2	97.6	▲ 4.0	▲ 6.4
鉱工業在庫指数（〃）	102.3	▲ 1.3	0.7	102.4	▲ 0.6	▲ 2.0
百貨店・スーパー販売額（単位：億円）（全 店）	495		3.6	18,691		4.7
			5.0			4.4
コンビニエンスストア販売額（単位：億円）	275		1.5	11,466		0.7
家電大型専門店販売額（単位：億円）	83		2.5	3,891		3.6
ドラッグストア販売額（単位：億円）	253		10.5	7,830		7.4
ホームセンター販売額（単位：億円）	86		12.5	2,984		7.9
乗用車新車新規登録・届出台数（単位：台）	8,696		1.3	271,464		▲ 3.2
新設住宅着工戸数（単位：戸）	1,348		▲ 13.4	66,819		▲ 5.1
公共工事請負金額（単位：億円）	439		1.6	10,706		▲ 3.9
有効求人倍率（季節調整済）	1.27	（前月差	0.01）	1.23	（前月差	▲ 0.01）
企業倒産件数（単位：件）	17		30.77	723		▲ 4.86

※前月比、前年同月比は、増減率を示す。有効求人倍率（季節調整済）は、前月差（ポイント差）を示す。

（本発表資料のお問い合わせ先）
四国経済産業局 総務企画部参事官（調査担当） 田中
担当者：三野
電 話：087-811-8509（直通）
URL：<https://www.shikoku.meti.go.jp/>

四国地域の経済動向

(令和6年8月分)

1. 鉱工業生産 ～一進一退～

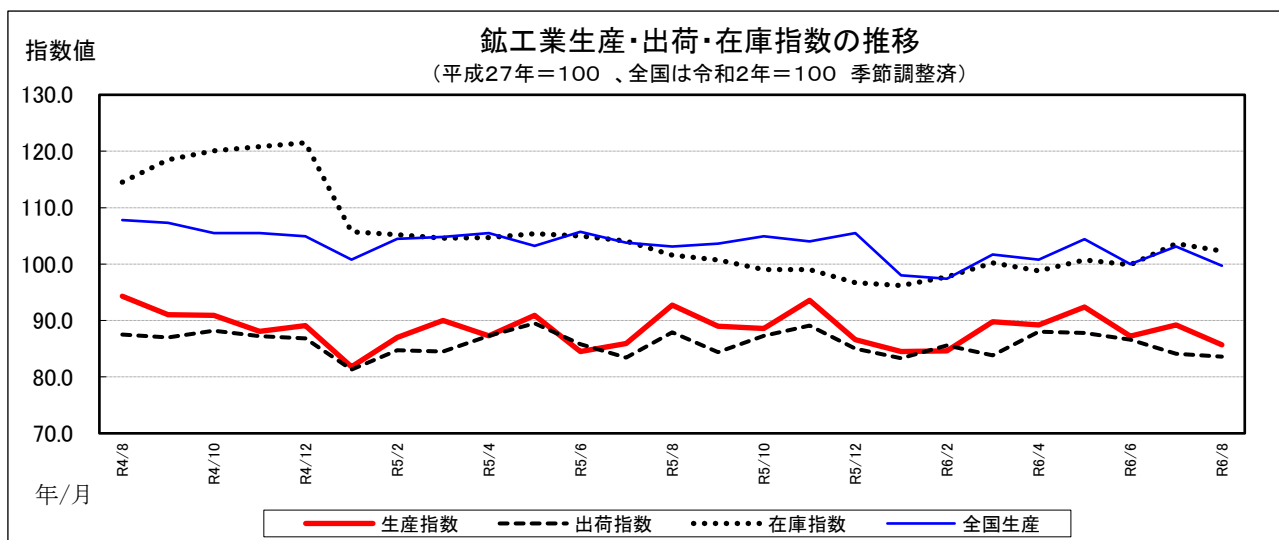
当月の鉱工業指数をみると、前月比では、生産は2カ月ぶりの低下、出荷は4カ月連続の低下、在庫は2カ月ぶりの低下、在庫率は3カ月連続の上昇となった。なお、前年同月比では、生産は5カ月ぶりの低下、出荷は2カ月ぶりの低下、在庫は17カ月ぶりの上昇、在庫率は7カ月ぶりの上昇となった。

生産は、前月比3.9%減(前年同月比8.9%減)となり、生産指数(季節調整済)は85.7となった。業種別にみると、化学・石油石炭製品工業、汎用・生産用機械工業、電気機械工業などが低下した。出荷は、前月比0.6%減(前年同月比6.2%減)となった。業種別にみると、電気機械工業、汎用・生産用機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが低下し、非鉄金属工業、その他工業、化学・石油石炭製品工業などが上昇した。在庫は、前月比1.3%減(前年同月比0.7%増)となった。業種別にみると、化学・石油石炭製品工業、非鉄金属工業、汎用・生産用機械工業などが低下し、鉄鋼業、パルプ・紙・紙加工品工業、電気機械工業などが上昇した。在庫率は、前月比43.4%増(前年同月比45.5%増)となった。

【鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済) 平成27年=100】

(増減率: %)

前月(年)比	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
生産指数	▲ 2.6	6.1	▲ 0.7	3.6	▲ 5.6	2.3	▲ 3.9
出荷指数	▲ 1.6	▲ 2.1	5.0	▲ 0.2	▲ 1.4	▲ 2.9	▲ 0.6
在庫指数	▲ 20.4	2.6	▲ 1.4	1.9	▲ 0.8	3.7	▲ 1.3



※最新月は速報値

(出所: 経済産業省「鉱工業指数」、四国経済産業局「四国地域の鉱工業生産・出荷・在庫指数」)

2. 個人消費 ～持ち直している～

(1) 小売販売

当月の百貨店・スーパー254店(百貨店4店とスーパー250店)の販売額合計は494.8億円で、前年同月比3.6%増と2カ月ぶりに前年を上回った。

業態別にみると、百貨店4店の販売額は47.7億円で、前年同月比1.3%増と2カ月ぶりに前年を上回った。品目別にみると、その他の商品は高級時計や宝飾品などが好調であったことなどから、2カ月ぶりに前年を上回った。一方、身の回り品については台風の影響などにより入店客数が減少したことなどから、2カ月連続で前年を下回った。また、飲食料品は一部店舗で前年行った催事がなかったことや、生鮮食品や菓子の動きが鈍かったことなどから、5カ月連続で前年を下回った。

スーパー250店の販売額は447.2億円で、前年同月比3.9%増と2カ月ぶりに前年を上回った。品目別にみると、飲食料品は南海トラフ地震臨時情報や台風の影響による飲料水や保存食などのまとめ買い、生鮮野菜の相場高や猛暑の影響などから、2カ月ぶりに前年を上回った。家庭用品はカセットコンロや水筒などの動きが良かったことなど

から、7カ月連続で前年を上回った。一方、衣料品については紳士服、子供服や肌着が伸び悩んだことなどから、7カ月連続で前年を下回った。

コンビニエンスストア1,574店の商品販売額及びサービス売上高は275.3億円で、前年同月比1.5%増と3カ月連続で前年を上回った。

家電大型専門店85店の販売額は82.8億円で、前年同月比2.5%増と3カ月連続で前年を上回った。

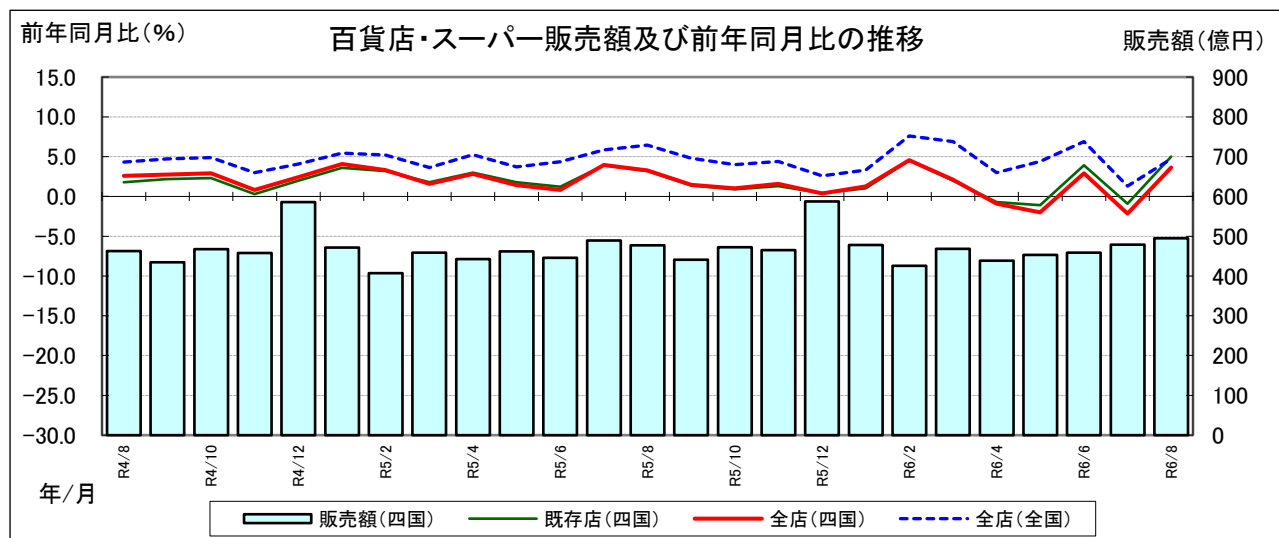
ドラッグストア631店の販売額は253.1億円で、前年同月比10.5%増と38カ月連続で前年を上回った。

ホームセンター201店の販売額は85.5億円で、前年同月比12.5%増と3カ月連続で前年を上回った。

【百貨店・スーパー販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
全 店	2.1	2.1	▲ 0.9	▲ 2.0	2.9	▲ 2.2	3.6
既存店	2.1	2.0	▲ 0.7	▲ 1.1	3.9	▲ 0.9	5.0



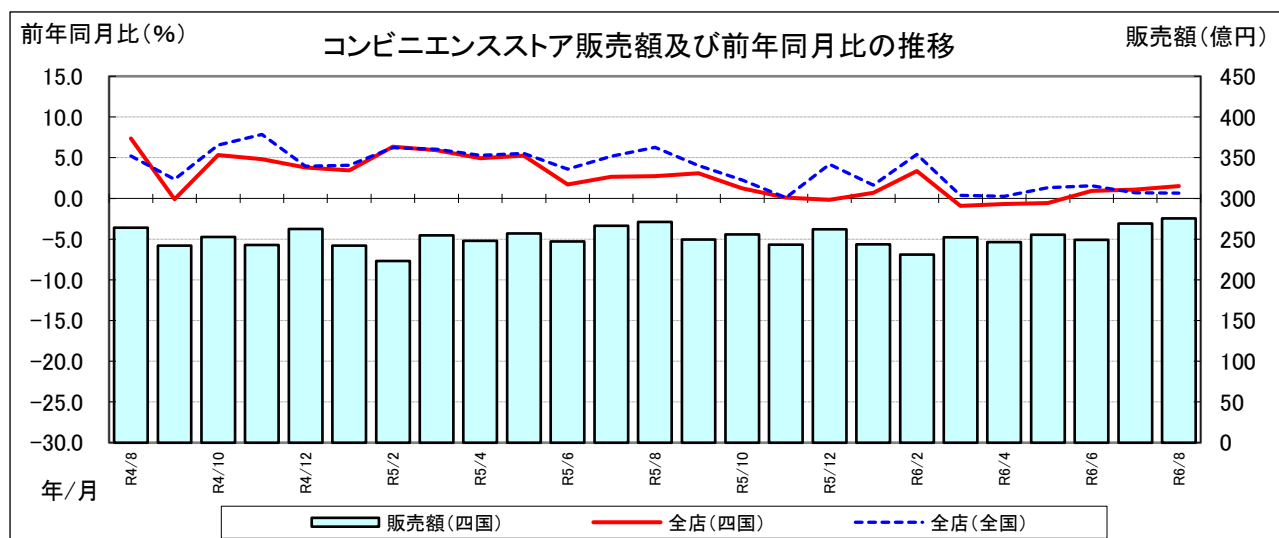
※最新月は速報値

(出所:経済産業省「商業動態統計調査」、四国経済産業局「四国地域の百貨店・スーパー販売状況」)

【コンビニエンスストア販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
全 店	3.0	▲ 0.9	▲ 0.7	▲ 0.6	0.9	1.1	1.5



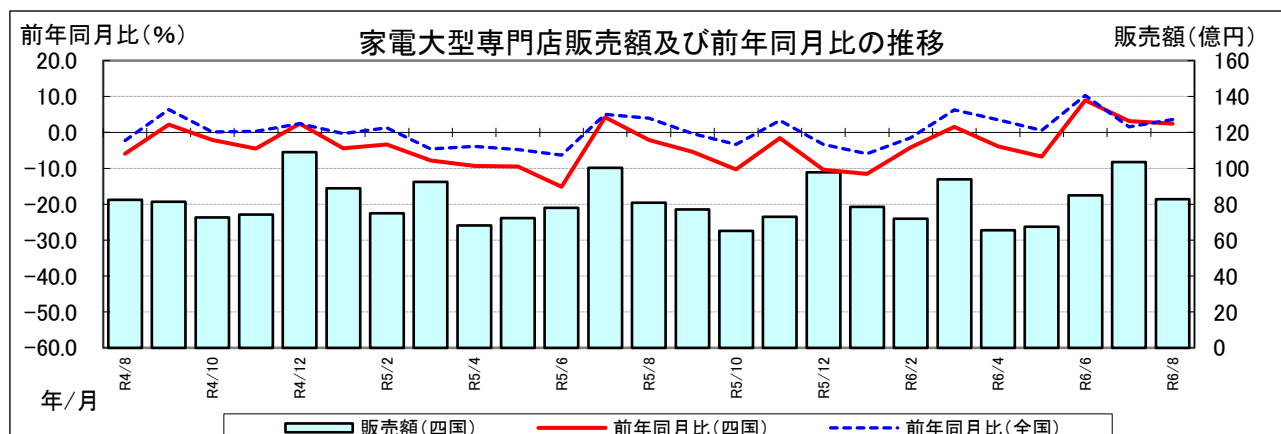
※最新月は速報値

(出所:経済産業省「商業動態統計調査」)

【家電大型専門店販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
全 店	▲ 6.3	1.6	▲ 3.9	▲ 6.7	8.9	3.1	2.5



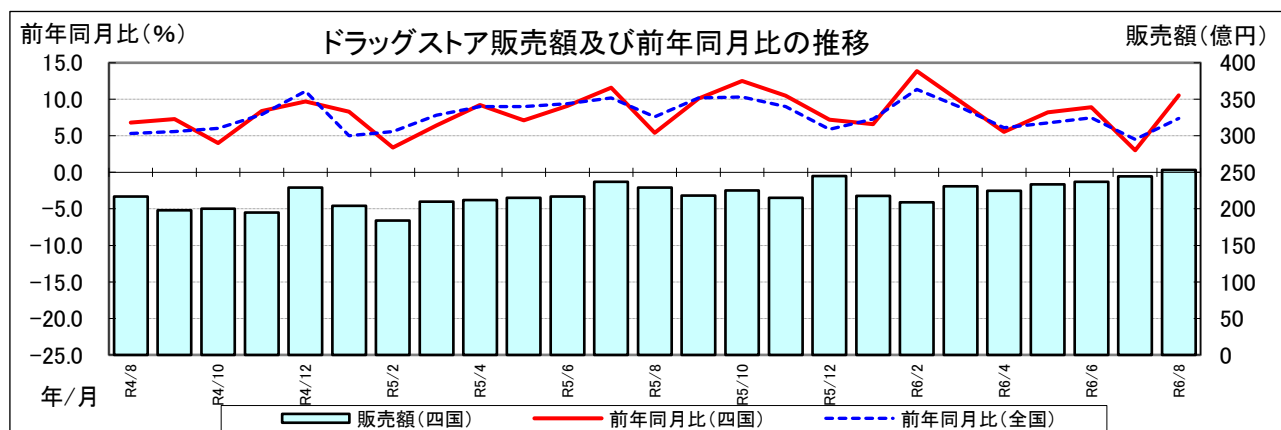
※最新月は速報値

(出所:経済産業省「商業動態統計調査」)

【ドラッグストア販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
全 店	8.5	9.7	5.5	8.2	8.9	3.0	10.5



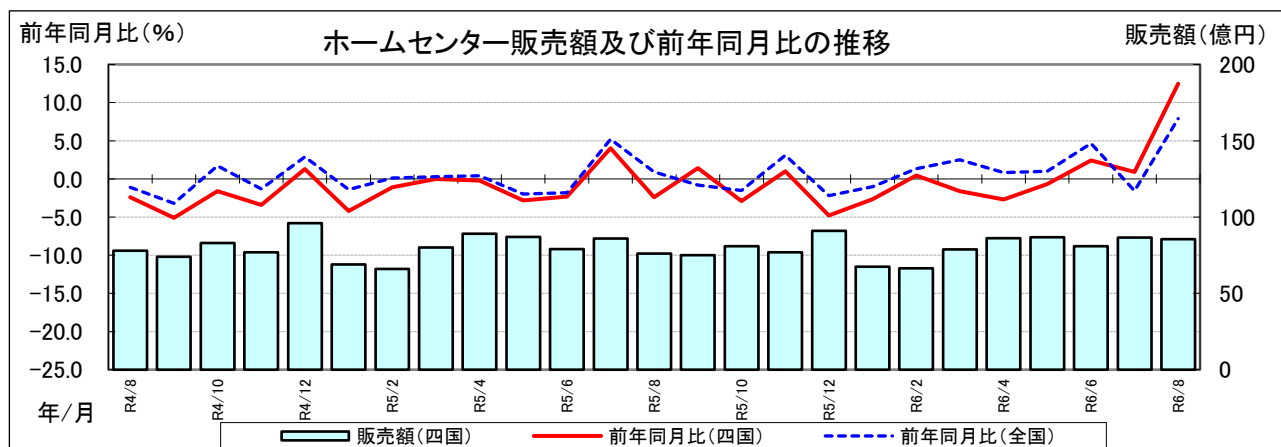
※最新月は速報値

(出所:経済産業省「商業動態統計調査」)

【ホームセンター販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
全 店	▲ 1.3	▲ 1.6	▲ 2.7	▲ 0.7	2.4	0.9	12.5



※最新月は速報値

(出所:経済産業省「商業動態統計調査」)

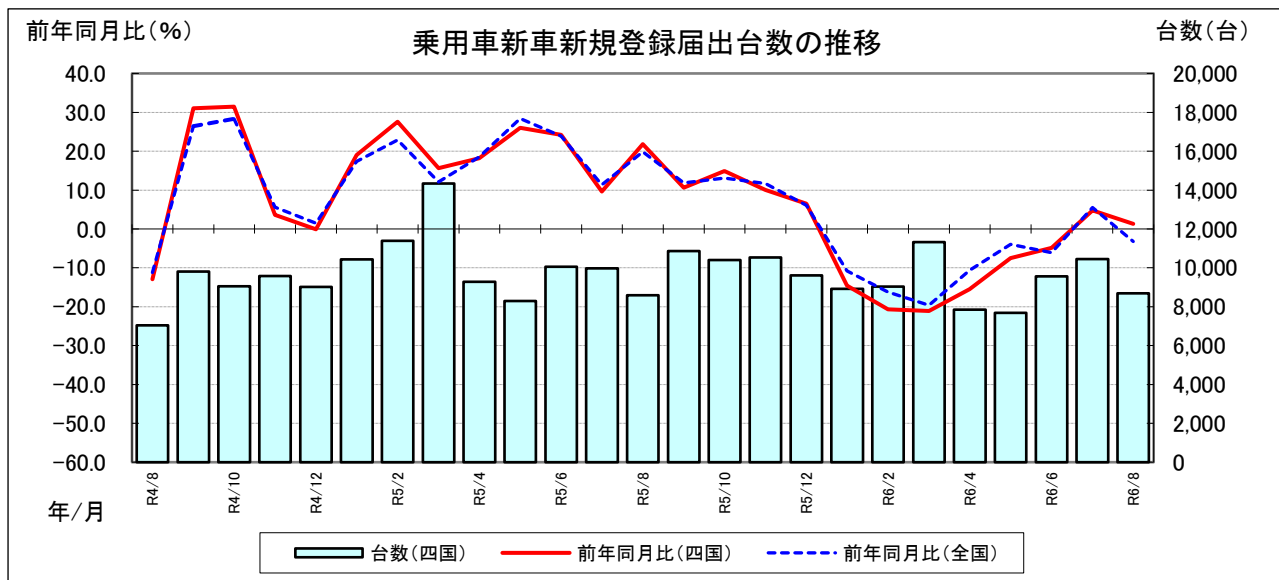
(2) 乗用車新車新規登録・届出台数

当月の乗用車新車新規登録・届出台数は8,696台で、前年同月比1.3%増となり、2カ月連続で前年を上回った。車種別でみると、普通乗用車が前年同月比4.1%増、小型乗用車が同2.8%減、軽乗用車が同1.2%増となった。

【乗用車新車新規登録・届出台数】

(増減率：%)

	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
前年同月(年)比	16.5	▲ 21.1	▲ 15.5	▲ 7.5	▲ 4.9	4.7	1.3



(出所: 四国運輸局、(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

3. 住宅着工

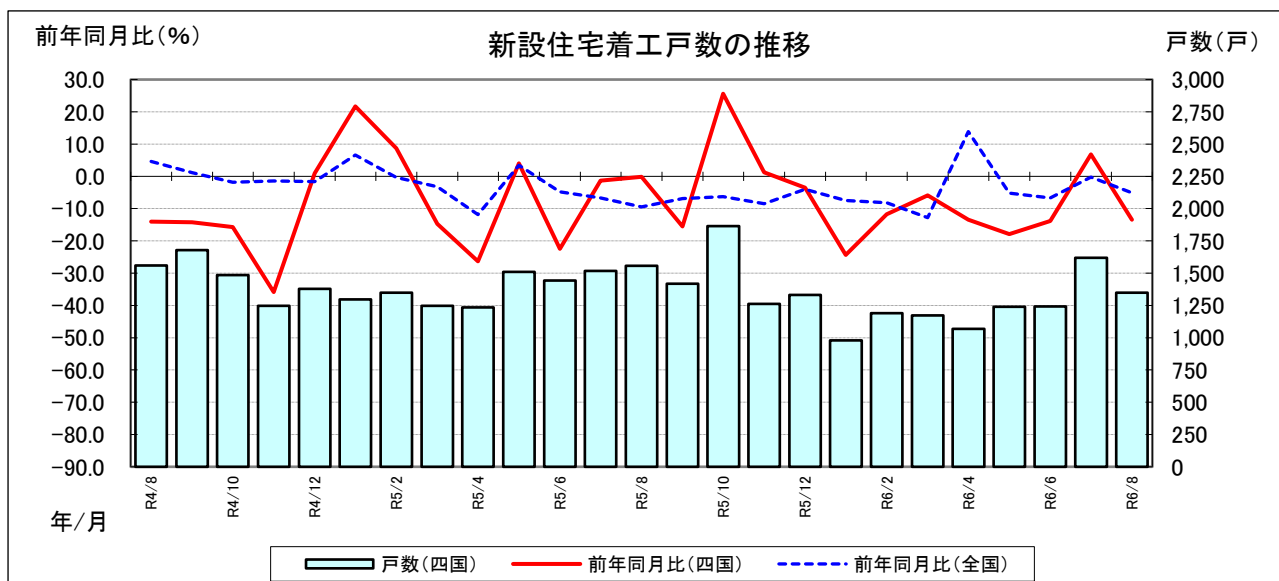
当月の新設住宅着工戸数は、1,348戸で、前年同月比13.4%減となり、2カ月ぶりに前年を下回った。

区分別でみると、持家が前年同月比8.5%減、貸家が同24.5%減、分譲住宅が同13.1%減となった。

【新設住宅着工戸数】

(増減率：%)

	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
前年同月(年)比	▲ 3.5	▲ 5.9	▲ 13.5	▲ 17.9	▲ 13.9	6.8	▲ 13.4



(出所: 国土交通省「建築着工統計調査」)

4. 公共工事

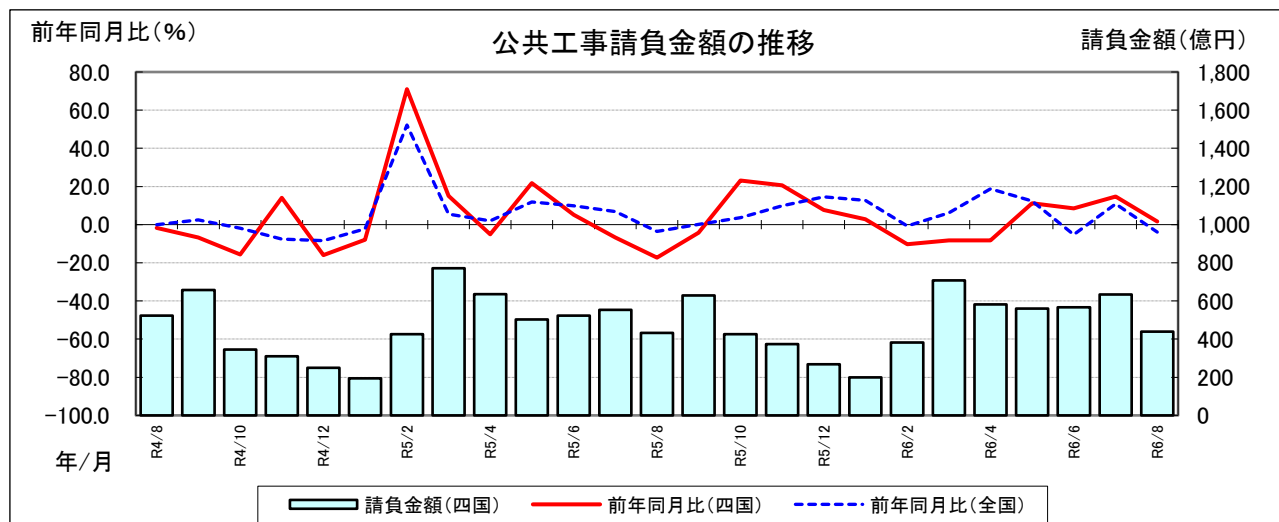
当月の公共工事の発注状況を請負金額でみると439億円で、前年同月比1.6%増と4カ月連続で前年を上回った。前年度同月累計比では5.2%増と4カ月連続で前年度を上回った。

発注者別では、国が前年同月比20.4%減、県が同12.1%増、市町村が同4.7%増、その他の公共的団体が同13.4%増、独立行政法人等が同41.0%減となった。

【公共工事請負金額】

(増減率: %)

	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
前年同月(年度)比	▲ 0.3	▲ 8.2	▲ 8.3	11.2	8.5	14.8	1.6
前年度同月累計比	-	▲ 0.3	▲ 8.3	0.3	2.9	5.9	5.2



(出所:北海道建設業信用保証㈱・東日本建設業保証㈱・西日本建設業保証㈱「公共工事前払金保証統計」、西日本建設業保証㈱香川支店)

5. 設備投資

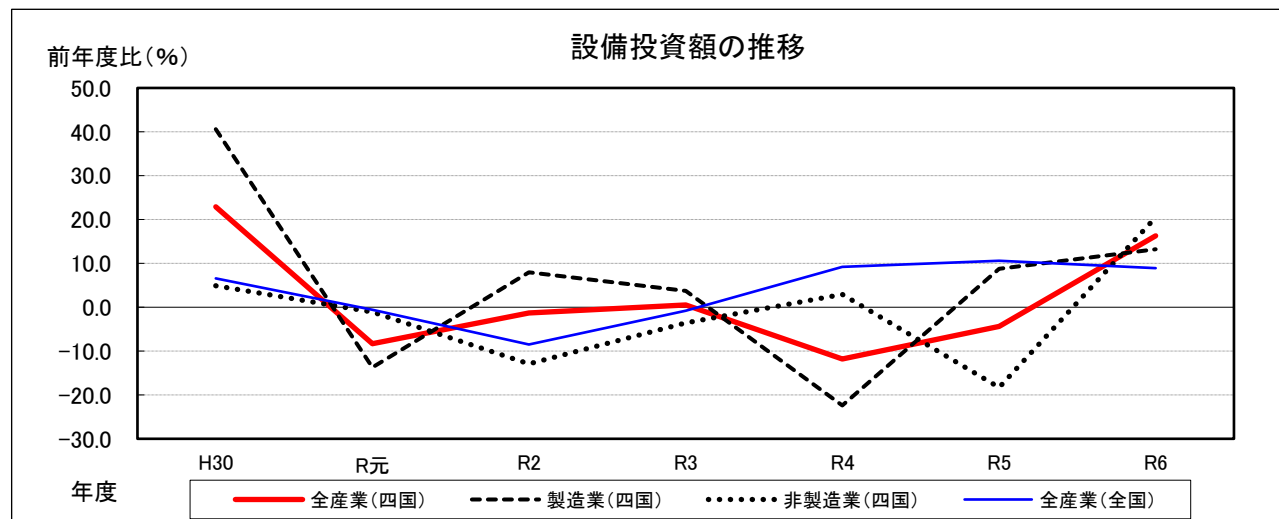
令和6年度の設備投資計画は、前年度比16.3%増となっている。

業種別では、製造業が前年度比13.2%増、非製造業が同20.5%増となっている。

【設備投資額(含む土地投資額)】

(前年度比: %)

	H30 年度実績	R 元年度実績	R2 年度実績	R3 年度実績	R4 年度実績	R5 年度実績	R6 年度計画
全産業	22.9	▲ 8.3	▲ 1.3	0.5	▲ 11.8	▲ 4.4	16.3
製造業	40.6	▲ 13.7	8.0	3.7	▲ 22.4	8.8	13.2
非製造業	4.9	▲ 1.1	▲ 12.9	▲ 3.6	2.9	▲ 18.3	20.5



(出所:日本銀行「企業短期経済観測調査」)

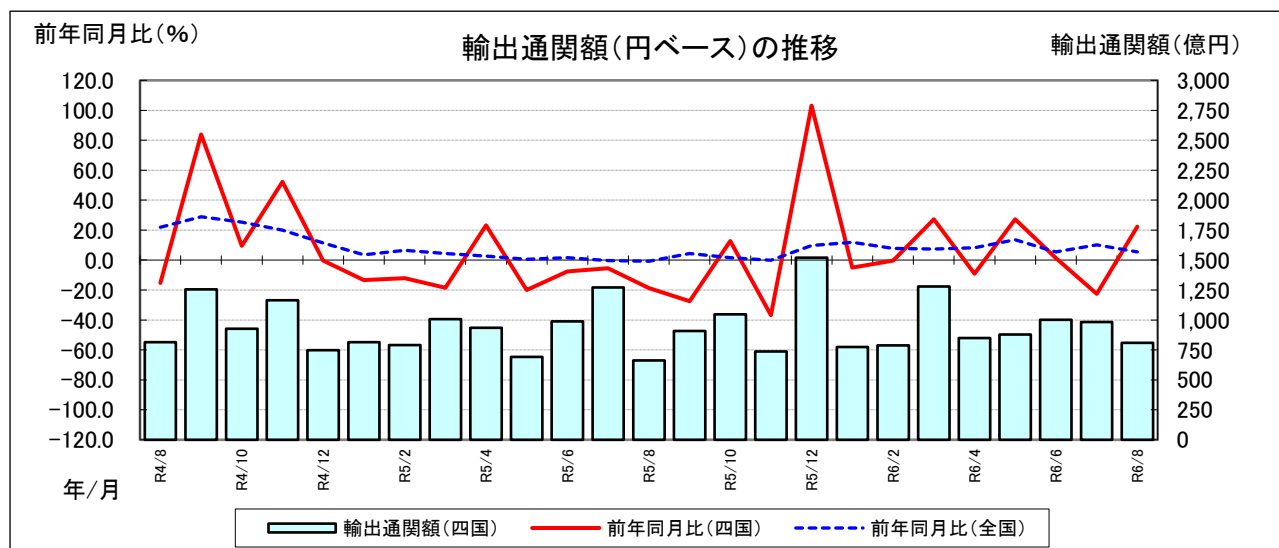
6. 貿 易

(1) 輸出

当月の輸出通関額(円ベース)は810億円で、繊維機械、非金属鉱物製品などが減少したものの、船舶、鉄金属などが増加したため、前年同月比22.3%増と、2カ月ぶりに前年を上回った。

【輸出通関額】 (増減率: %)

	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
前年同月(年)比	▲ 5.4	27.2	▲ 9.1	27.3	1.3	▲ 22.6	22.3



※最新月は速報値。

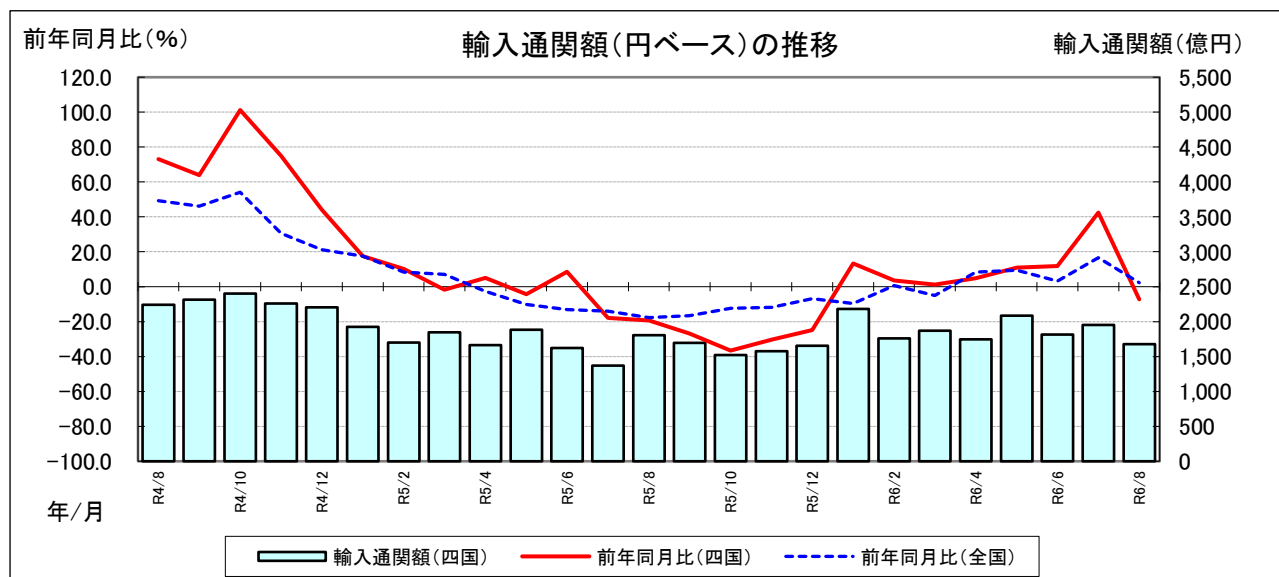
(出所:神戸税関「貿易統計」)

(2) 輸入

当月の輸入通関額(円ベース)は1,677億円で、原油及び粗油、有機化合物などが増加したものの、石炭、天然ガス及び製造ガスなどが減少したため、前年同月比7.2%減と、8カ月ぶりに前年を下回った。

【輸入通関額】 (増減率: %)

	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
前年同月(年)比	▲ 12.6	1.2	4.8	10.9	11.8	42.5	▲ 7.2



※最新月は速報値。

(出所:神戸税関「貿易統計」)

7. 雇 用

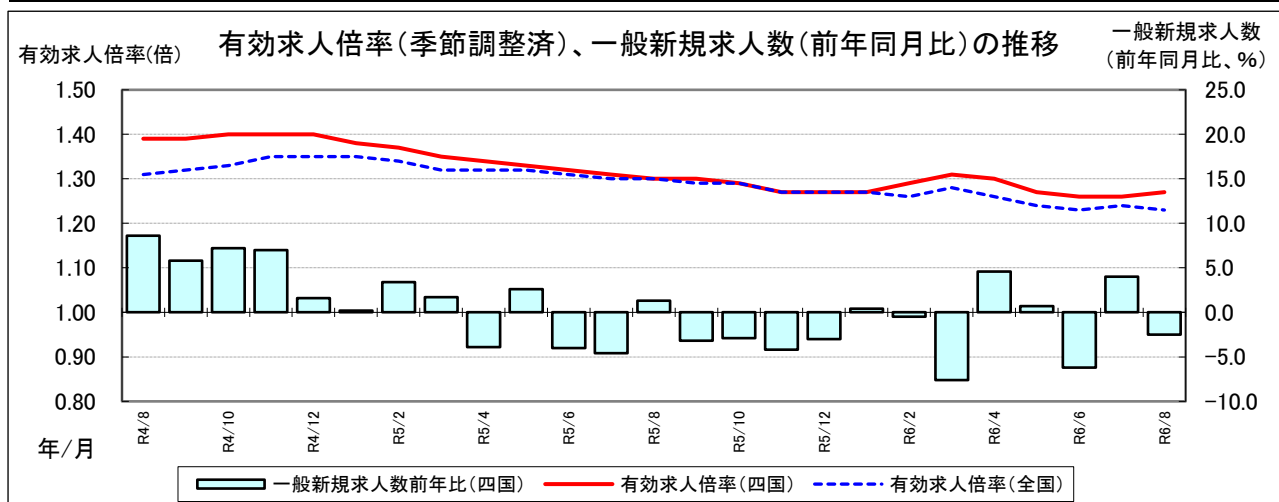
当月の雇用情勢をみると、有効求人倍率(季節調整済)は1.27倍で、5カ月ぶりに前月を上回った。

産業別の一般新規求人数(新規学卒、パートタイムを除く)をみると、「医療、福祉」、「教育、学習支援業」などが前年を上回ったものの、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」などが前年を下回り、全体では前年同月比2.5%減と、2カ月ぶりに前年を下回った。

【雇用】

(倍、増減率：%)

	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
有効求人倍率(季節調整済)	1.32	1.31	1.30	1.27	1.26	1.26	1.27
一般新規求人数(前年同月(年)比)	▲ 1.4	▲ 7.6	4.6	0.7	▲ 6.2	4.0	▲ 2.5



(出所：厚生労働省「職業安定業務統計」、四国4県の労働局データを加工)

8. 企業倒産

当月の企業倒産状況をみると、倒産件数は17件で前年同月比30.77%増と、2カ月連続で前年を上回った。

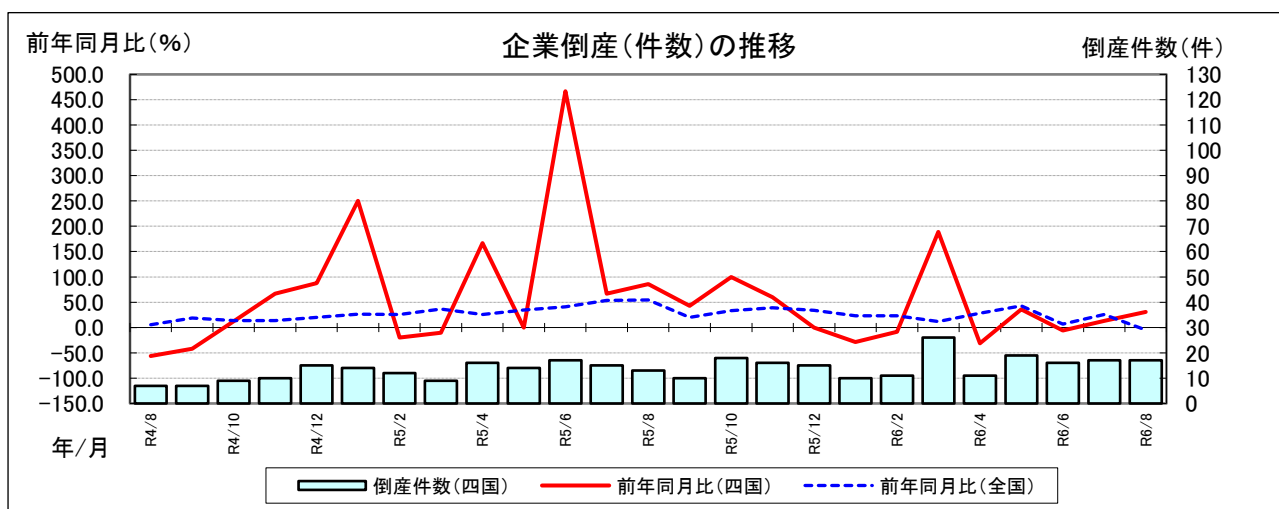
また、負債総額は47.0億円で、前年同月比36.16%増と、2カ月連続で前年を上回った。

8月の過去10年間をみると、倒産件数、負債総額ともに最多となっている。原因別では、販売不振が10件、既往のシワ寄せが5件、放漫経営が2件となっている。また、産業別では、建設業が9件、卸売業が3件、サービス業他が2件、農・林・漁・鉱業、小売業、運輸業が各1件となっている。

【企業倒産】

(件、負債総額：百万円)

	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
件 数	169	26	11	19	16	17	17
負債総額	40,548	2,268	1,678	1,871	1,317	1,527	4,703



(出所：㈱東京商工リサーチ)

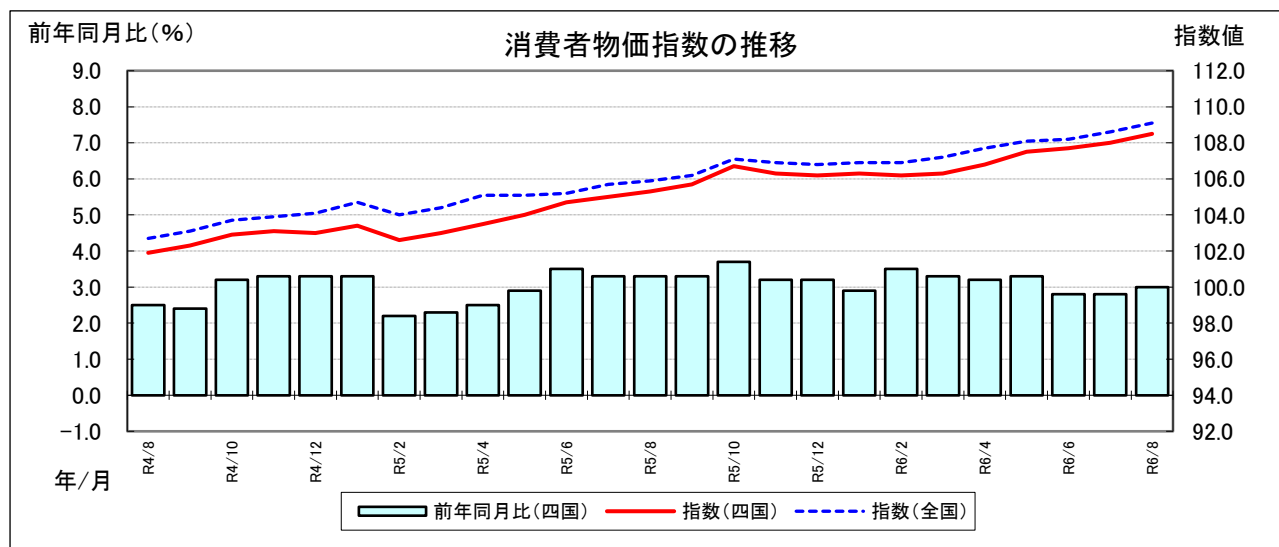
9. 消費者物価

当月の消費者物価指数は108.5で、被服及び履物、光熱・水道が低下したものの、食料、教養娯楽などが上昇したことから前月比0.5%増となった。また、前年同月比は、食料、光熱・水道などが上昇したことから3.0%増となった。

【消費者物価指数 令和2年＝100】

(増減率：%)

	R5	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7	R6/8
前月(年)比	3.1	0.1	0.5	0.6	0.2	0.3	0.5



(出所：総務省「消費者物価指数」)